

文部省選定

笑の中に母性の尊さを
説く異色作!!

案ズルヨリ 産ムガ易シ

記録映画 16ミリ カラー 24分 ¥ 150,000

■製作意図

科学万能の今日でも、我々の生活の中には、昔からの行事や言い伝えなどが生きていて、生活にうるおいをつけています。

特に妊娠、出産や育児に関する多くのものは、親から子へと引きつがれています。これらを、近代医学の眼から見ますと、全く根拠のないものもありますが昔からの経験に基いて獲得された生活の知恵も少なくありません。映画では、この民間習俗的な生活の知恵を、今日の妊婦の立場で捉えて昔からの人間の知恵の深さを再発見するとともに、このような観点から現代の妊婦が日常心がけなければならない問題とお産に対する考え方を学ぼうとするものです。

■撮影場所と主な習俗

- 子安講 千葉県東金市地方 安産をねがう婦人たちの講で子安神社にお籠りしてお産の軽い事を祈念するもの。全国各地でみられた。
- 餅切り 岐阜県海津町地方 妊娠祝の一つで嫁の里方から紅白の餅に小豆を入れて送られてくる。婚家で餅を切ってみて中の小豆が切れると女の子といわれる。
- オイダシ 三重県志摩地方 オイダシゲともいう。妊婦を招いて食事をさせる風習で、つぎつぎと親戚もちまわりでごちそうする。おい出しには子供が早く生れるようにという意味もある。
- 産小屋 福井県敦賀地方 うぶやともいい、村の協同産小屋、別火の思想から男子禁制で、産前産後は妊婦は家に帰れなかった。町方では屋敷内に離れを建てたという。

■この映画の

対象 高校・成人・青年・若夫婦
用途 一般教養

■製作スタッフ

製作	村山英世
脚本	藤原智子
	瀬藤祝
演出	瀬藤祝
撮影	三枝弘夫
イラスト	佃公彦
音楽	三木稔一
解説	小沢昭

監 修
日赤産院院長
小林 隆

■企画
雪印乳業株式会社

製 作

株式会社 桜 映 画 社

東京都新宿区西新宿 1-22-1 スタンダードビル
TEL 03 (342) 5768 〒160

配 給

●安産祈願

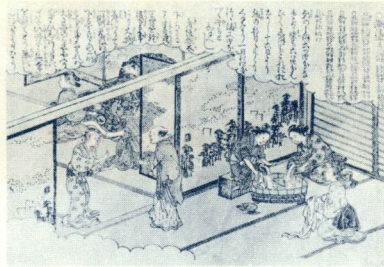
今日でも多くの人々が安産とよい子を願って神社にお詣りしています(水天宮)。お詣りする妊婦のインタビューからも、妊娠、出産が非常に精神的なものであることがうかがえます。

●腹帯

妊娠5ヶ月目に入るとする腹帯も、外国ではみられない精神的なならわしですが、科学的にみても、お腹を支え、胎児の位置を正しく保つのに役立つといわれています。



昔の帯の儀式



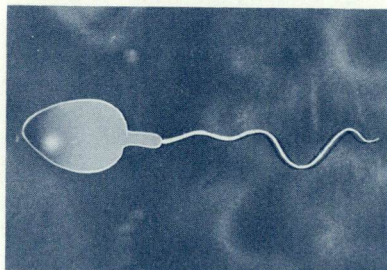
昔のお産の情景—男子禁製の産室



昔の乳の出るようにはまじない

●胎児の男女

次によく問題になるのはお腹の胎児が男か女かという事です。昔の人は殊に関心があったらしくこれに関するおもしろい習俗があります。岐阜県海津町では、お餅の中に豆を一つ入れ、それを切って行って豆が切れれば女、切れなければ男というわけです。確率は5割。そんなことをして祝い楽しんだのです。しかし現実のお母さんのお腹では女100対男150、しかし成長して大人になるころはほぼ同数になるという、見事な自然の配慮であります。男か女かは受精と同時に精子の染色体の形できまってしまうのですが、昔の人はそこまで知りませんでした。



このように、光る精子と卵が結合すれば男児

●胎教

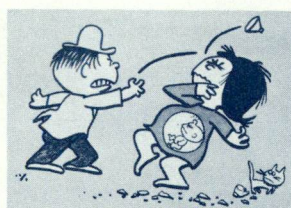
胎教については、さまざまないまいめがあり、ヤレ火事を見ると赤アザの子が産れるとか、タコを食べるとイボの子がといった精神生活や食生活に注意を与えたものがたくさんありますが、これらを現代的に考えれば、妊婦は安定した精神生活と汚染食品や、不用なクスリを飲むという事が現代の胎教でしょう。



平静に美しく



たばこ



夫婦げんか



火事に会ったり

●地域連帯

さらに妊娠が進むと、昔の人は「子安講」に参加したり、妊婦を隣近所や親戚で呼んでごちそうする風習も見られます。妊娠、出産というものが地域的な連帯感の中で進行したことがうかがえます。この点、現代の妊婦は母親学級とか、定期健康検診という医学的な恩恵に浴している反面、昔の人にくらべると、孤独でそれだけに不安なものになっていると思います。妊娠、出産が非常に精神的なものであることを考えると、気を付けなければいけない問題です。

地域性とか、連帯感といったものは、昔の出産にはよく現れています。仏教伝来のころから、お産は不浄なもの、異常なものと考えられ、多くの妊婦は家族から離れた、産小屋で生む風習はひろく行われています。女性の地位も低く、厳しい条件の中のお産であったことも確かですが、産屋で生んだことのある老婆(福井県敦賀市)から聞くと、この制度を逆に生活の知恵で合理的に運用していたのが判ります。つまり姑から離して部落の女たちがお産を助けているのです。

●御産における人間性と科学

妊娠、出産というあまりにも人間の事は単に科学的厳密さだけで追求するものではない事は、これら産育習俗をみるとよく判ります。これからのお産は、もう一度こうした人間性豊かなものとしていかなければなりません(小林隆博士)。

●女人の尊さ

そしてこの映画は、人間を産み出すという最つともたしかな手ごたえのある天職を見事にまっとうして子どもや孫たちに囲まれた元気な老婆のにぎやかな誕生日で終ります。